Akita University

秋田大学附属図書館
外部評価報告書

AKITA UNIVERSITY

平成18年3月

秋田大学附属図書館

Akita University

秋田大学附属図書館
外部評価報告書

平成18年 3 月

Akita University

はじめに

秋田大学附属図書館長
石　川　三佐男

「図書館がよくなれば大学がよくなる」という言葉と関連し、S. R. ランガナータンの「図書館学の5法則」(The Five Laws of Library Science)(今圓子訳)というのがある。

1．図書は利用するためにある。　Books are for use.
2．すべての人に、図書を。　Books are for all.
3．すべての図書に、読者を。　Every book its reader.
4．利用者の時間を大切に。　Save the time of reader.
5．図書館は成長する組織である。　A library is a growing organism.

この法則は実に簡潔で、それでいて普遍的な叡智を内包している。このほかにも掬すべき事例として「図書館は人類の知的・文化的な情報資源へのアクセスとその利用をすべての人に保証し、さらに新たに創造された資源に加えた知的・文化的な情報資源を将来に継承するという崇高で重要な使命(mission)をもっている」(高山正也)、「"すべての図書館をすべての利用者に"、直接または間接に、円滑かつ迅速に利用可能となる制度を整備するとともに、館種を越えた物理的及び人的な図書館ネットワークを形成することは、全ての種類の図書館にとって、不可欠の条件である」(雨森弘行)等がある。

平成17年8月、これら先人の叡智に習い、また図書館業務に関わるすべてのスタッフの意識向上の指標として、われわれは「秋田大学附属図書館の理念・目標」(3つの理念・7つの目標)を制定した。3つの理念は次のようになっている。

1．高度な学術情報の収集と公開体制を確立し、学習・教育・研究活動を幅広く支援する。
2．学習者・教育者・研究者及び市民の情報収集を支援し、学術研究交流の振興に寄与する。
3．学術情報発信拠点として大学の知的財産を社会に還元し、学術文化の発展に貢献する。

この3つの理念、また7つの目標に対して実情はどのようであるか。そこでこの問題意識を承けて、秋田大学附属図書館は平成17年度、平成4年度以来14年ぶり第2回目の自己点検・評価を実施し、「秋田大学附属図書館自己点検・評価報告書」(平成18年2月)をまとめた。平成17年度にはさらに秋田県内外から外部評価委員として遠藤恵子・加藤順三・佐藤裕・高橋彰三郎・三浦陸の5名の先生方をお迎えし、秋田大学附属図書館創設以来はじめての外部評価を受審した。受審日は平成18年2月20日、評価項目は10項目、受審内容は手形キャンパス本館と本道キャンパス分館の実地見分を踏まえてもらった上での附属図書館評価委員及び図書館職員との意見交換や問審等であった。後日、委員の先生方には評価調査票のとりまとめ作業でも手を煩わせることとなった。今回の「秋田大学附属図書館外部評価報告書」(平成18年3月)はその全記録である。

今回、秋田大学附属図書館が受審した外部評価は、評価項目10目に即し、高い評価を受けた

Akita University

点が３項目（理念と基本目標、利用者サービスの工夫、ホームページの整備等）、努力・改善を要する等の厳しい評価を受けた点が６項目（大学における附属図書館の位置づけの明確化、附属図書館の環境全体の整備、図書資料遡及入力の迅速化、学生用図書資料の充実、セキュリティ対策、貴重図書の保管管理の工夫等）、計９項目に集約されている。附記として、１件２項目の改善すべき課題（医学部分館における貸出冊数の再検討、及び開館時間の延長）が指摘された。ほかには、教員の研究室に所蔵されている図書資料の開放等々、外部評価を受審しなければとうてい気がつかないような指摘も多々あった。指摘された内容には喫緊の課題も少なからず含まれている。

図書館の運営に係る外部評価のもつ意義は、１）固有の理念や目標の達成に向けて図書館関係者や大学全体がどのように自助努力を行っているかについて厳正な意見やチェックを徴し受け、２）その評価結果を真摯に受けとめることを通じて業務の改革・改善を実現し、３）さらに次の新計画に繋げていくという、この三項のマネジメントの循環的継続を図るところに生命線があるといってよいであろう。これには人材の育成及び職員の意識改革が大前提として含まれることは説明を要しない。その意味でもわれわれは今回受審した外部評価を契機とし、重い責任を伴う第一歩を踏み出したことを忘れてはならない。

以上のことを私は秋田大学附属図書館を代表して深く銘記し、ご多忙中にも拘わらず快くお引き受けいただいた５名の外部評価委員の先生方に対し、改めて感謝の意を表する次第である。

Akita University

秋田大学附属図書館の理念・目標

平成17年8月3日
（2005.8.3）

【理念】

1. 高度な学術情報の収集と公開体制を確立し、学習・教育・研究活動を幅広く支援する。
2. 学習者・教育者・研究者及び市民の情報収集を支援し、学術研究交流の振興に寄与する。
3. 学術情報発信拠点として大学の知的財産を社会に還元し、学術文化の発展に貢献する。

【目標】

1. 優れた日本文化と秋田文化の再発見・顕彰に努め、併せて文字・活字文化の振興を図る。(注)
2. 読書し思考するための静寂な空間の確保等、利用環境の整備を図る。
3. 図書館資料の系統的計画的な収集、電子図書館機能の充実を図り、学術情報を広範かつ迅速に提供する。
4. 情報リテラシー教育の充実、利用時間の拡大等を推進し、学習者を中心とした利用者支援サービスの充実を図る。
5. 学術情報の公開と生涯学習の支援等に努め、地域社会との連携・交流の強化を図る。
6. 留学生及び日本の学生等が海外の情報に接し国際交流を深めるため、国際交流コーナーの整備を進め関連資料の充実を図る。
7. 学内外の関連組織との連携・協力の促進を図り、先端的な教育・研究活動の支援と学内で創生される学術情報の積極的な発信を推進する。

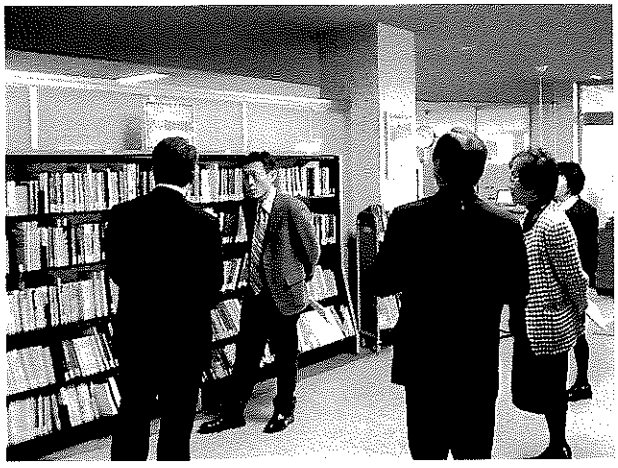
（注）「文字・活字文化振興法」（平成17年7月22日成立）

Akita University

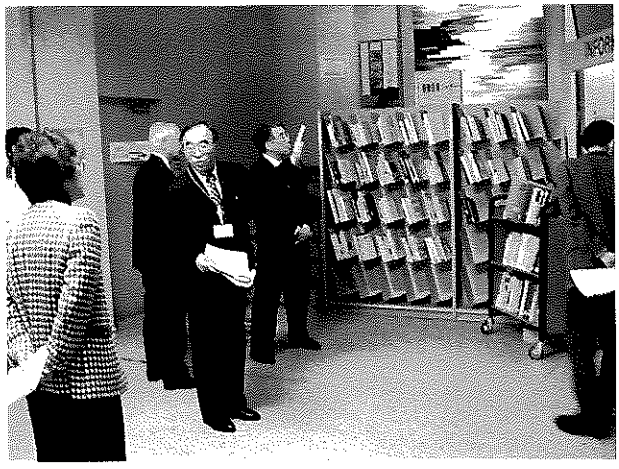
実地視察と質疑応答光景

現状説明

図書館入口にて



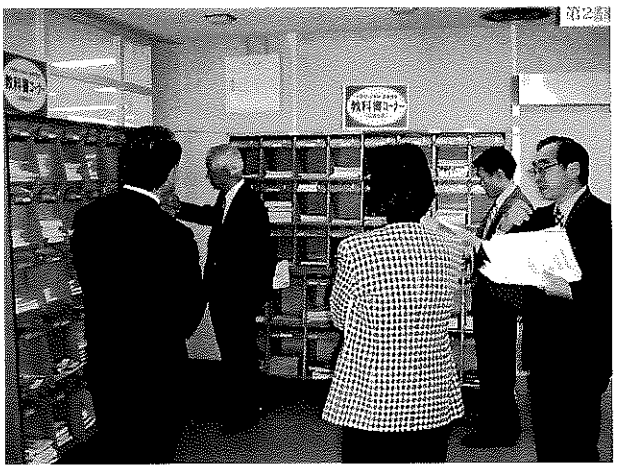
シラバスコーナーにて



新着図書コーナーにて

Akita University

国際交流コーナーにて



教科書コーナーにて

北方教育資料室にて

質疑応答

Akita University

目　次

外部評価委員会実施日程 …… 1

外部評価委員会委員等名簿 …… 2

外部評価まとめ …… 3

評　価　項　目 …… 4

外部評価委員の概評及び評価 …… 5

外部評価委員会記録 …… 19

当日の評価並びに質疑応答 …… 25

当 日 の 講 評 …… 39

(参考資料)

Akita University

外部評価委員会実施日程

平成18年２月20日（月）

１．開会挨拶 委員長選出 日程説明 附属図書館状況説明	09：30～10：00
２．本館及び分館実地視察	10：00～12：00
３．館長挨拶 参加者紹介 資料確認	13：00～13：30
４．外部評価委員評価（当日分）	13：30～14：00
５．質疑応答	14：10～14：50
６．講評打合せ	14：50～15：20
７．講　　評（当日分まとめ）	15：20～16：00
８．閉会挨拶	16：00～16：10

終　　了

Akita University

秋田大学附属図書館外部評価委員等名簿

1．外部評価委員

遠　藤　恵　子	（外部評価委員長）	東北学院大学図書館長
加　藤　順　三	（外部評価委員）	秋田県立図書館長
佐　藤　　裕	（外部評価委員）	秋田魁新報社文化部長
高　橋　彰三郎	（外部評価委員）	秋田市立中央図書館明徳館図書選定アドバイザー
三　浦　　陸	（外部評価担当）	東北学院大学図書情報課長

2．附属図書館長、医学部分館長

石　川　三佐男	（附属図書館長・委員長）	教育文化学部教授
高　田　五　郎	（医学部分館長）	医学部教授

3．附属図書館評価委員

寺　井　謙　次	（評価委員）	教育文化学部教授
大　友　和　夫	（評価委員）	医学部教授
及　川　　洋	（評価委員）	工学資源学部教授
四反田　素　幸	（評価委員）	教育文化学部教授
志　立　正　知	（評価委員）	教育文化学部教授
杉　本　文　男	（評価委員）	工学資源学部教授

4．附属図書館職員

笹　本　達　見	事務長
小　林　　清	事務長補佐
三　浦　栄　悦	総務係長
加賀谷　龍　悦	図書情報係長
高　野　幸　子	雑誌情報係長
澁　谷　順　子	利用サービス係長
高　橋　孝　一	専門職員（情報システム担当）
高　橋　　寛	医学部分館図書係長
柏　倉　久美子	図書情報係主任
原　　智　子	医学部分館図書係主任

Akita University

外　部　評　価

Akita University

平成18年３月17日

秋田大学附属図書館外部評価委員会
委員長　遠　藤　恵　子

平成18年２月20日に開催した秋田大学附属図書館外部評価委員会において、資料及び附属図書館概要の説明を受け、また、施設設備の視察を経て、当日分の評価並びに質疑応答を行った。その後各委員から、別紙のとおり正式評価を提出いただき、下記のとおり外部評価をまとめた。

秋田大学附属図書館外部評価まとめ

1．理念と基本目標を明確に定めている点は、すべての外部評価委員が極めて高く評価している。さらに、将来構想の内容についても十分に検討され、優れた内容であると考えられる。
2．利用者サービスについては、さまざまなきめ細かい工夫がなされ、よく努力していることが窺える。
3．ホームページがよく整理され、利用案内も英語のほか中国語・韓国語にも対応していること、インターネット上でサービスされている諸情報を積極的に取り入れるなど、優れた内容である。
4．図書館の中期目標を、大学全体の中心に位置づけ、大学全体にとっても緊急の課題とすべきである。それには、館長のリーダーシップが重要であるが、それを支える学内体制づくりが必要である。
5．書架の配置、視聴覚設備の充実、エアコンの設置等々も含め、環境全体の整備はぜひとも必要である。現状では、利用者にとって快適な図書館とは言い難い。
6．図書の遡及事務は優先順位を上げて早急に取り組む必要がある。そのためには、アウトソーシング等の方法も検討すべきである。これと関連して、横断検索が可能となるような努力も望まれる。
7．財政的問題もあろうが、今後とも学生用図書資料の充実に努めてほしい。
8．学外者の利用が増えるなど、図書館の地域貢献は評価できるが、セキュリティ対策に十分配慮する必要がある。
9．貴重書の保管管理には一層の工夫が必要である。また、貴重な資料の整理も急ぐべきである。

＊医学部分館について

上記に加え、特に医学部分館については、貸出冊数の再検討及び開館時間の延長が課題と思われる。

Akita University

評　価　項　目

1．理念・目標・将来計画

2．管理運営

3．施設・設備

4．財政運営

5．図書館資料及び学術情報

6．利用者サービス

7．電子図書館化及び情報リテラシー教育

8．社会との連携

9．県内大学等の図書館との連携

10．自己点検・評価体制並びに外部評価体制

Akita University

秋田大学附属図書館外部評価　評価調査票

委員名：遠　藤　恵　子

項番	評価項目	評　価	コ　メ　ン　ト
1	理念・目標・将来構想	■非常に優れている □良好である □おおむね良好である □不十分である	1．明確でわかりやすい理念と目標を設定している。学術情報収集や研究交流の振興のみならず、社会に対する知的財産の還元を前面にうち出していることも高く評価したい。 2．留学生や障害者への配慮が明記されており、誰にも開かれた図書館をめざしていることがうかがえる。 3．将来構想では、秋田大学コーナーや秋田県コーナーも充実が予定されていて、独自性・特色をもった図書館の方向性が示されている。
2	管理運営	□非常に優れている □良好である ■おおむね良好である □不十分である	1．図書館関連の委員会が多数あり、それぞれ機能・役割が異なるとはいえ、相互に関連する審議事項も少なからずあると思われる。委員会の整理が必要ではないか。 2．遡及業務は急務である。優先的に遂行しなければ、情報発信も他大学・他図書館との連携等々も支障が出ると思われる。 3．学生へのアンケート調査などニーズの把握に努力しているが、入退館チェック設備（パソコンとの連動）を見直す必要がある。 4．セキュリティの確保について、人員や設備の面で不安がある。
3	施設・設備	□非常に優れている □良好である □おおむね良好である ■不十分である	1．図書館は情報収集の場であると同時に、思索・省察・研究の場でもある。現状では、そのような環境が整備されているとは言いがたい。 2．閲覧面積や座席数は確保されているようであるが、快適な空間とはなっていない。 3．書庫の確保も必要である。除却予定図書資料が、ダンボール箱に入れて通路等に積まれてあり、安全上も問題がある。 4．入退館システムの更新、そして何よりも建物自体も大幅な改修が必要と思われる。
4	財政運営	□非常に優れている □良好である ■おおむね良好である □不十分である	1．厳しい予算のなかで、学生図書の充実を図るなど努力している様子がうかがえる。 2．大学総予算のなかで、図書館総経費に占める比率が少ない（Cクラス平均）ことは大きな問題であり、せめてCクラス平均にまで高める必要がある。 3．運営費の比率がやや高めであることから、一部業務のアウトソーシングも検討すべきであろう。しかしその際、どういった業務を外注すべきかについては慎重な議論がのぞまれる。

Akita University

項番	評価項目	評　価	コ　メ　ン　ト
5	図書館資料及び学術情報	□非常に優れている □良好である ■おおむね良好である □不十分である	1．受け入れ図書数の減少は、極めて憂慮すべき問題である。電子ジャーナルも益々必要性が高まると考えられることから、やはり他図書館との連携を検討する必要がある。 2．図書の収蔵場所は、研究教育の実態に合わせることが重要であるが、管理は一元化した方が効率的であり、重複図書のチェックも容易である。そのためにも早急な遡及業務が必要である。 3．貴重書の保管管理及び整理がのぞまれる。貴重書を収蔵しておく場の整備と、図書資料の整理を集中的に行うことが課題ではないか。
6	利用者サービス	□非常に優れている ■良好である □おおむね良好である □不十分である	1．開館時間、会館日数を年々広げており、非常に努力を重ねている。 2．カードによる24時間利用も高く評価したい。ただし、セキュリティをいかに確保するかが今後の課題であろう。 3．留学生コーナーやシラバス掲載参考図書コーナーなどきめ細かな工夫が随所にみられる。
7	電子情報化及び情報リテラシー教育	□非常に優れている ■良好である □おおむね良好である □不十分である	1．学内創生資料の電子化や学内外から自由に利用できるデーターベース検索システム整備は、着実に行われている。 2．いわゆる文系の電子ジャーナルが少ないのは、ニーズがあまりないためであろうか。 3．情報リテラシー教育については、授業の一環として位置づけたられ非常に優れているが、受講生がわずか50名に制限されているのが惜しまれる。
8	社会との連携	□非常に優れている ■良好である □おおむね良好である □不十分である	1．学外利用者が５年間で２倍にもなった背景には、図書館の大きな努力があったと思われる。地域に貢献する図書館の姿勢がうかがえる。一方、大学図書館の基本は、大学における研究教育・学習が最優先であることも忘れないでほしい。 2．貴重書を広く展示に供することは、図書館自体のＰＲにもなり、今後も計画的に実施していくことがのぞましい。

Akita University

項番	評価項目	評　価	コ　メ　ン　ト
9	県内大学等との図書館等との連携	□非常に優れている □良好である □おおむね良好である ■不十分である	1．研究者の相互利用は今後の課題と思われる。 2．大学等の図書館のみならず他の公私の図書館との連携にあたっては、秋田県における文化の発信地としての秋田大学の役割に鑑みて、リーダーシップをとって推進していくことが期待される。
10	自己点検・評価体制並びに学部評価体制	■非常に優れている □良好である □おおむね良好である □不十分である	1．自己点検評価については体制が整っており、慎重かつ詳細な点検・評価がなされている。 2．外部評価も多方面から委員を選定するなど体制を整えた上で、図書館視察を実施し充実した評価環境を準備している。 3．これらの評価が、実際の図書館運営にいかに活かされるかが重要である。

Akita University

委員名：加　藤　順　三

項番	評価項目	評　価	コ　メ　ン　ト
1	理念・目標・将来構想	■非常に優れている □良好である □おおむね良好である □不十分である	理念・目標を明確に掲げて将来構想を立てていることは、図書館改革が大学改革につながるもので大学の目的を後押しするものとして館長をリーダーとしてまとまっている。学術、文化や産業の情報発信拠点として，地域が期待するところも大きく、学術情報基盤センター実現にむかうことを期待する。まず、学習・教育・研究を支援する学術情報基盤として、第一義的に大学構成員のニーズに応え、図書館サービスを徹底したい。
2	管理運営	□非常に優れている ■良好である □おおむね良好である □不十分である	組織、体制はしっかりしているので、そこでの議論が大学という広い視点に立って行われるように配慮すること。予算逼迫の時、効率的な運営の点から、人員削減やアウトソーシングが取り上げられる。これは、図書館の「人」、職員の努力に関わることであり、遡及データの処理等は外部契約も含め工夫し、職員の専門職としての力量を高め、広報活動を強化することである。
3	施設・設備	□非常に優れている □良好である ■おおむね良好である □不十分である	施設・設備の充足度を比較するとき「Cクラス平均」だけでは消極的すぎるように見える。せっかくの実績をアピールする上でも、大学基準協会の評価度や目標値を設定するなど工夫ができる。職員が努力している評価できることはもっと強調すべきである。全体の老朽化は否めないが、閲覧室の机、本の配列、貼り紙などの工夫をするとともに、もっと利用者の要望を聞くことで使い勝手のよいものになるのではないか。
4	財政運営	□非常に優れている □良好である ■おおむね良好である □不十分である	経費削減の中で厳しい財政運営でよく運営されているが、総予算の1.04%では節約等ではまかないきれない。特に資料費の不足は専門図書の購入が不十分となり、受入数は出版数から見ても少ないので、研究等に支障をきたすものと推測される。運営費は遡及データなど人件費は計画的に外部契約も考慮すべきである。

Akita University

項番	評価項目	評　価	コ　メ　ン　ト
5	図書館資料及び学術雑誌	□非常に優れている □良好である ■おおむね良好である □不十分である	学生用図書購入費を前年と同額を確保していることは実質増であり、よく努力されている。しかし、単価の高騰もあり、図書館の基盤をなす資料費の増額が必要である。選書の面で優先順位に基づいて努力する視点が必要である。一般教養書の購入が不十分なら公立図書館等との協力連携を図る必要がある。雑誌はその速報性からも重視すべきで、経費削減理由のみで安易に中止すべきでない。貴重資料の保存、扱いを慎重に、特に北方教育資料の紙劣化への対応や「教育課程文庫」の早期の整理が望まれる。
6	利用者サービス	□非常に優れている ■良好である □おおむね良好である □不十分である	HPが利用者を考えよく工夫されている。入り口マットの安全対策や車いすへの対応など考慮されている。現人員では貸出しのセルフ化や職員の対応はよい（学生の生の声）。24時間開館は費用対効果も考慮し、サービスアワーを特定したサービスとすべきである。 複本購入が不可能なら、分館のようなショートローンは有効であり、学内者が同等に利用できるようなサービスを広げる。新たな図書館利用者を増やすために学生の図書館利用ガイダンスの工夫が必要である。図書館専門員としてのレファランスサービスの満足度のような指標を作り、一層のサービス向上を図る。
7	電子情報化及び情報リテラシー教育	□非常に優れている ■良好である □おおむね良好である □不十分である	「情報リテラシー教育」を図書館で担当することは人員削減の中でよく頑張っている。受講者を増やすことが必要である。電子ジャーナルは学部での違いが大きいと思うが、今後研究にとって不可欠であり、共通経費とした努力は高く評価したい。引き続き安定的供給を図るための検討が必要である。また、デジタル資源を長期的に利用可能にしておくための研究や施策が必要である。
8	社会との連携	□非常に優れている ■良好である □おおむね良好である □不十分である	学外者利用への配慮はよく、学内者とほぼ同等に扱っていることは高く評価するが、むしろ危機管理の面からの配慮が必要である。カードの発行などで最低限の実態把握があっていい。公開講座などでは学外に場所を求めることなど協力連携をより強めることも可能である。まず、大学としてのあるべき教育研究活動をいかに充実させるかという点での図書館活動を考えること。「社会的存在としての大学」の視点が評価の柱でもあり、さらに秋田大学は、本県での最高の文化・知の拠点・発信地であるという評価を考えた時、大きな課題となり果たす役割は大きい。

Akita University

項番	評価項目	評　価	コ　メ　ン　ト
9	県内大学等の図書館等との連携	□非常に優れている □良好である ■おおむね良好である □不十分である	他大学の資料の不十分さに加え、秋田大学所蔵資料は県内学生の研究にとって必要な場合が多いと聞く。 相互利用が促進できるように秋田大学図書館が他大学をリードしていくべきである。利用実績の把握、また、危機管理面からも紹介状やカード（身分証明書）の提示等、工夫によって相互利用がもっと進めやすくなるのではないか。他県の実例からも参考になることがあるのではないか。
10	自己点検・評価体制並びに学部評価体制	■非常に優れている □良好である □おおむね良好である □不十分である	全般的に利用者の実態調査、評価、課題と対策が行われている。自己点検の項目はよく検討されていて網羅されている。評価は、内容についても概ね同意できるが、評価基準が曖昧な項目もあるので今後検討してもらいたい。評価は、利用者の期待するサービスと実際に提供されているサービスとの比較が重要であると思われるので、今後も利用者のニーズをどのように把握していくか、秋田大学附属図書館として必要な質問項目を選定していくことが重要である。大学図書館としての自主性と計画性が問われていることであり、これを機に一層の努力を期待する。

Akita University

委員名：佐　藤　　裕

項番	評価項目	評　価	コ　メ　ン　ト
1	理念・目標・将来構想	■非常に優れている □良好である □おおむね良好である □不十分である	図書館の明確な理念を打ち出したケースは少ないのではないか。柱を立てることにより、進めるべき、目指すべき方向がはっきりした。理念の（2）として市民へのアピール＝市民の情報収集の支援＝があるのはありがたく、頼もしい。目標にも、学術情報の公開と生涯学習の支援、地域社会との連携・強化をうたっているのは、市民に開かれた図書館として、その存在感を高めそうだ。「学術情報基盤センター」構想は、単に図書館のみに留まらない事項である。全学的な協議により、その実現と内容充実に努力してもらいたい。
2	管理運営	□非常に優れている □良好である ■おおむね良好である □不十分である	委員会の配置、機能は確保されていると想像する。ただ、その数が多く、整理・統合できるものはないか精査する必要がある。(5) とも関連するが、学生用図書館資料選定専門委員会はより充実させ、無理・無駄のない図書の納入につなげてほしい。データや情報にアクセスするシステムの構築状況は良好と思われる。電子ジャーナルの必要性は増しているが、その利用率を調査し、適宜取捨選択をしていきたい。上の２点については、学部学生、大学院生の声を反響させることが不可欠。
3	施設・設備	□非常に優れている □良好である ■おおむね良好である □不十分である	建物の老朽化が進んでいる（手形キャンパス）。エアコンが入った部屋が限られているのは、学習効率の面から大いに問題がある。夏場の数週間で、しかも夏休み期間とも重なるが、冷房があるとないでは学生及び利用者に与える影響は大きい。マイクロフィルム閲覧コーナーは利用者が少ないという。いつでも利用できるという対応法は残しつつ、部屋は必要ないのではないか。他に、手形キャンパスの視聴覚設備は、ソフト内容とともに改革の余地がある。映画等はやめ、専門に特化した方がよい。
4	財政運営	□非常に優れている □良好である ■おおむね良好である □不十分である	人件費の増加傾向が気になる。事務・業務内容の拡大等で上昇傾向にあると想像する。だが、このままでは上昇が続きそうで、ひいては、図書の充実に悪影響を及ぼしかねない。業務内容の一層の見直し、例えば、効率よい人事配置になっているのか、外注できる部門はないのか等精査が望まれる。加えて、大学総予算に対する図書館総経費の割合をアップさせてほしい。言うまでもなく、図書館は大学の知の根本でもある。

Akita University

項番	評価項目	評　価	コ　メ　ン　ト
5	図書館資料及び学術雑誌	□非常に優れている □良好である ■おおむね良好である □不十分である	アンケート結果などから分かることは、「古い本が多い」「今では役立たない本が多い」。とすれば、まず管理が十分でないのではないか。限られたスペースを有効に使うために、定期的に廃棄する本を決め、処分することが大切だ。また、「今では役立たない本が多い」とすれば、財政的にも大きな問題である。選定委員会の機能や委員構成などを見直す必要がありそうだ。北方教育関係、鉱山関係の貴重図書が保存されているのは大きな財産である。ネットでの一部紹介は評価したい。他のものも、より人の目に触れるような展示法を考えてほしい。教育課程文庫の教科書整理を進めることも課題だ。
6	利用者サービス	□非常に優れている ■良好である □おおむね良好である □不十分である	現在17時～20時までの夜間開館が、18年度に試験的に21時までとなることは時代にかなっている。今は夜型社会であることは否定できず、望むらくは22時までとしてほしいものだ。カードを持っている部内者はフルタイム利用可ということであるが、セキュリティーには十分留意してもらいたい。カードがどんなルートで部外者に渡らないとも限らない。「図書館だより」は内容が充実している。利用者からの寄稿の範囲を一般の人にも広げれば、より親しみがわくのではないか。各図書館、大学、高校の他には配布していないのだろうか。例えば、図書館のイベントに参加した人に送付したなら「つながり」を感じてもらえるのではないか。
7	電子情報化及び情報リテラシー教育	□非常に優れている □良好である ■おおむね良好である □不十分である	学内創生資料のデータベース化は、検索（選択）のスピードアップ、保存スペースの確保といった面からも、これから進めるべき事業だと思う。同時にまだ未処理分の文献についての電子化が急務となる。外注によるスピードアップが望まれる。情報リテラシー教育は、あらゆる情報の中から、効率よく自分のテーマにあった文献・図書を見つけ出すとともに、図書館機能のフル活用のために、是非積極的に取り組んでほしい。ただ、50人という受講人数は少ないのではないか。できるならば、カリキュラムをシンプルにするなどして、多くの学生が受講できるように努力すべきだ。

Akita University

項番	評価項目	評　価	コ　メ　ン　ト
8	社会との連携	□非常に優れている □良好である ■おおむね良好である □不十分である	秋田大学の図書館を、一般の人も利用できることを知っている人はまだまだ少ない。理念・目標に明確に市民の支援、地域の連携強化を打ち出したのであるから、「市民担当班」でも設けて対応すべきだ。講演会、イベントも増やしてほしい。学内の幅広い人材を考えれば、年に数回は開けるのではないか。歴史、健康、スポーツ等柔らかいテーマがいい。こうしたことを通じて、やや近寄りがたい図書館に人が集まると考える。子供たちへのアピールも忘れないでほしい。夏休みの課題に答えるコーナーや、休み期間の子供たちへのイベント（今も行われているが）は、子供たちとその親に大学への信頼感を育み、応援しようとする気持ちを作り出すと信じる。
9	県内大学等の図書館等との連携	□非常に優れている □良好である ■おおむね良好である □不十分である	図書館のホームページは充実している。OPACも便利で頼りがいのある図書館だと感じる。秋田大学のホームページの上の方に「図書館」のボタンを置いてほしい。また、「訪問者別メニュー」→「企業・地域の人」の中に図書館のメニューも加えてほしい。県立図書館と市立中央図書館明徳館は、ダブリが少なくなるよう、選書に当たって情報交換していると聞いている。大学間でも、基本的な図書・文献については、それぞれの大学が選ぶとして「あったらいいな」的なものについては、各校参加の委員会等を通じて検討してはどうか。また、不要になった本をトレードし合うといった方法もあるのではないか。個々の蔵書も大切だが、ネットワークを構築し「地域内のどこかの図書館にある」という考えを持つこともこれからは大事である。
10	自己点検・評価体制並びに学部評価体制	□非常に優れている ■良好である □おおむね良好である □不十分である	点検の実施要項は多岐にわたっていて、十分、機能発揮が期待される。委員が実施した自己点検と評価は一般にも公開してほしい。図書館のホームページに、簡潔でいいので課題→対応というようにして、その（解決）結果が分かるようにしてほしい。開かれた図書館としてのイメージアップにつながると思う。外部評価体制についても同様に、指摘された点、それへの対応・考えと誰でも手に入る形で公表すべきだ。また、メンバーも幅広く選択してほしいと思う。

Akita University

委員名：高　橋　彰三郎

項番	評価項目	評　価	コ　メ　ン　ト
1	理念・目標・将来構想	■非常に優れている □良好である □おおむね良好である □不十分である	図書館運営の改善・改革に並々ならぬ意欲を持っておられることが随所に伺われ、大きく前進することへの期待が持てる。 ①実態を様々なデータ・資料によって的確に把握し問題点を剔抉し、分析も正鵠を得ている。「緊急な課題」(P2)として大学改革の中心に据えられ　るよう望む。 ②「三つの理念・七つの目標」は高く評価してよい。これに沿って強力に推進されるよう望む。 ③構想されている「学術情報基盤センター」は大学改革のシンボルとなろうし、多くの課題を一気に解決するものになるであろう。期待している。
2	管理運営	□非常に優れている ■良好である □おおむね良好である □不十分である	館長のリーダーとしての人格・識見・方針が徐々に浸透し、改革・改善に一歩も二歩も踏み出しているように思う。(「はじめに」「理念・目標・構想」P1) 学内一体となってサポートされるよう願う。 館長の役割が多過ぎる。負担軽減を図る余地はないか。(例、館長主宰の会議が５つ、情報リテラシーの講義が２回、等)
3	施設・設備	□非常に優れている □良好である □おおむね良好である ■不十分である	閲覧室・書庫・書架等々、全ての面で整備の遅れが気にかかる。 学生は家庭にあっては個室エアコン付き、高校時代もかなり恵まれた条件の中で勉強してきている。 入館した第一印象で、すでに負けているのではないか。 入学して大学で学ぶことの緊張感と幸福感、それに応えるに十分な施設・設備であって欲しい。 (学生食堂の方が図書館より立派だというのは寂しい話である)
4	財政運営	□非常に優れている □良好である ■おおむね良好である □不十分である	上記「３　施設・設備」の立ち遅れで、財政運営万般にわたって工夫の限界を越えているのではないか。担当者の苦心のほどがしのばれる。 老朽化による修繕費用は額面以上に食い込んでいるのではあるまいか。 唯一、「学生用図書購入費」を減額しなかったことを高く評価する。

Akita University

項番	評価項目	評　価	コ　メ　ン　ト
5	図書館資料及び学術雑誌	□非常に優れている □良好である □おおむね良好である ■不十分である	蔵書は数よりも質で論じられるべきであろう。図書の更新を目に見える形で進めないと、教官、学生共に欲求不満は募るばかりであろう。 秋田大学は高度の文化情報発信源として秋田県の盟主たるべき立場にある。その役割を担うにふさわしい内容であって欲しい。 次代を背負う学生の育成に、もう少し恵まれた環境を整えてやりたいと切に思う。 ＊分館については、評価は「良好」とする。本館と比べ、こちらは本が生き生きしているように見える。
6	利用者サービス	□非常に優れている ■良好である □おおむね良好である □不十分である	意欲的に取り組んでおられる。 「図書館便り」が斬新。読書指導、役割指導にも大きく役立っているようである。 シラバス・新着図書コーナー等の設置。これも、新館ができればもっと見栄えもしょうし、紹介図書も明るく輝くであろうと思う。 閲覧室、書庫等の配架がまとまりに欠けるように見えるのも「3施設・設備」の窮屈さから来るものであろう。
7	電子情報化及び情報リテラシー教育	□非常に優れている ■良好である □おおむね良好である □不十分である	十分対応しているように思われる。
8	社会との連携	□非常に優れている ■良好である □おおむね良好である □不十分である	学外者として利用させて頂いており有難い。 書庫の方の貴重な文献も直接手にとって調べることのできる恩恵を受けている。 但し、貴重な資料が多い所だけに学外者の利用はもう少し制限されてもよいのではあるまいか。粗雑な扱いをする人が結構いるものである。 ＊分館 学外者の利用が増えると、閲覧室等は狭い。 肝心の学生の足が遠のくことになりかねない。

Akita University

項番	評価項目	評　価	コ　メ　ン　ト
9	県内大学等の図書館等との連携	□非常に優れている □良好である □おおむね良好である ■不十分である	秋田大学自身の、蔵書のコンピューター登録が遅れている由。 そのことが他機関との連携を遅らせているように思われる。 館員が一杯一杯のところで努力しておられる。
10	自己点検・評価体制並びに学部評価体制	■非常に優れている □良好である □おおむね良好である □不十分である	「評価報告書」の内容が立派である。 ここに盛られた「課題」の解決に前進されることを願う。そうでないと徒労感だけが残る。 外部評価体制については，学内の方には遠慮があって指摘できないこともあろうし、図書館学の講座のない大学では，その方面の委員の意見も貴重であろう。 次回は領域・分野・（或いは課題）を狭めて、その道の識者に意見を求めることがあってよいのではあるまいか。

Akita University

秋田大学附属図書館外部評価　評価調査票の記載について（お願い）

1．「秋田大学附属図書館外部評価　評価調査票」は，外部評価委員の先生方に，外部評価（２月20日）の会議後に，この記載要領に基づいて評価を提出願うものです。

2．評価に当たりましては，「評価」欄の「□非常に優れている　□良好である　□おおむね良好である　□不十分である」の４段階から，該当するものを選択してチェックして下さい。４段階は，独立行政法人大学評価・学位授与機構の使用する評語に沿ったものであり，次のようにお考え下さい。

「非常に優れている」は，当該項目について非常に優れており，十分の活動がなされている。

「良好である」は，当該項目について優れており，良好の活動がなされている。

「おおむね良好である」は，当該項目について改善すべきところはあるが，当該項目についておおむね良好であり，おおむね良好な活動がなされている。

「不十分である」は，当該項目について大幅な改善の必要があり，活動も不十分である。

3．「コメント」欄には，当該項目に対する評価のポイントや判断の根拠となったことをご記入下さい。特に早急に改善することが望ましい点の指摘，改善のための助言なども併せてご教示下さるようお願いいたします。

例：○○に関しては××が充実しているが，△△が不十分である。
　今後□□に向けた取り組みが必要。なお，◎◎を検討してはどうか。
この「コメント」欄には，できる限りご記入下さるようお願いいたします。

4．各外部評価委員からご提出いただいたこの評価調査票は，集計の上，外部評価報告書に掲載させていただく予定です。また，この評価調査票及び外部評価実施当日の講評を基にして，外部評価委員長による取りまとめ及び提言をいただくこととなっております。

5．以上により，誠に恐縮に存じますが，３月17日（金）までに記入の上，ご返送下さるようお願いいたします。

Akita University

外部評価委員会記録

Akita University

外部評価委員会記録

【笹本事務長】

ただ今より秋田大学附属図書館の外部評価委員会を開催させていただきます。

私は委員長が議事進行されるまでの間、進行を務めさせていただきます附属図書館事務長の笹本でございます。

開会にあたりまして石川図書館長からご挨拶申し上げます。

【石川館長】

このたびは秋田大学附属図書館最初の外部評価受審に際しまして、委員をお引き受け下さいました先生方にまず厚く御礼申し上げます。委員をお引き受けくださいました先生方のお顔ぶれは外部評価にふさわしい最強のメンバーを擁することができ大変ありがたいことと思っております。これも皆学問の縁、文化に対する思いの深さといいましょうか、これが今日の運びにつながっていると理解しております。

お手元の名簿で紹介させていただいてありますけれども、東北学院大学図書館長の遠藤啓子先生には本日ありがとうございます。なぜ遠藤先生なのかということを冒頭に紹介させていただきますと、今から2年ほど前に東北学院大学のオープンリサーチセンターという、いわゆる公開講座であります。これは外部資金を獲得し、展開しておられたプログラムでありますが、その時に担当しておられた谷口満先生が私に声をかけてくださいまして、是非講演をして欲しいという要請がありました。折りしも、上海の復旦大学の徐志嘯先生が私のところの客員教授として見えておりましたので、二人丸抱えの形で招請を受けました。大変盛況裏に終わりましたが、前後しまして東北学院大学の図書館を是非見て欲しいということで、ご案内いただきました。一通り拝見させてもらって非常に感動致し、それが私の脳裏に深くありまして、今回外部評価をお願いするには東北学院大学さんが最良だと考えた次第です。

秋田県立図書館長加藤先生には、秋田県において、秋田県立図書館については改めてご説明する必要がないかと思いますが、中でも私の非常に印象深いことは、その伝統と言いましょうか、歴史と言いましょうか、明治の半ば頃に大変著名な書誌学者・島田翰という方がおりまして、このお方が日本全国の図書館20館に限定して国内外から評価の高い自著「古文旧書考」を寄贈しております。当時、日本全国を代表する20の図書館の中に早くも秋田県立図書館が入っているということは歴史的に見ても意味があるわけで、やはり秋田大学の図書館が外部評価を受けるには県立図書館の館長先生にお願いすることが最良であると考えた次第であります。

秋田魁新報社文化部長の佐藤先生には、私自身魁新報社と個人的に40年ぐらいの縁をいただいて今に至っているわけですが、公私にわたって、また、佐藤社長が秋田大学の経営協議会、等にも加わっていただいている長い歴史、そういう交流の歴史があるということも背景にあります。そういう意味でも最強のメンバーと考えさせていただいております。

Akita University

高橋彰三郎先生は現在明徳図書館でアドバイザーをされていますが、教育及び学校経営等の分野では、県立秋田北高等学校の校長先生を歴任され、県立博物館の館長等も歴任されました。その他秋田大学図書館を最もよく利用されている方のお一人ということで、これは県民を代表して今回のメンバーに加わっていただいた次第です。

東北学院大学三浦図書情報課長には、遠藤先生のサポートということでご足労いただいております。

ということで、第１回目の私どもの外部評価をいただくに際しまして、大変な素晴らしいメンバー恵まれました。改めて厚く御礼申し上げます。本日はよろしくお願いしたいと思います。

それでは今回の外部評価にあたり、提案させていただきますが、この委員会の委員長を東北学院大学の遠藤先生に是非ともお願いしたいと思います。

引き続き本日の日程および図書館の概要等につきまして笹本事務長の方から説明します。

【笹本事務長】

それでは日程と概要につきまして説明させていただきます。

日程については資料のとおりです。

引き続き概要について、資料に基づき簡単に説明いたします。自己点検評価報告書でまとめてはありますが、再度まとめさせていただきました。

まず沿革ですが、昭和24年に秋田大学は秋田師範学校、秋田青年師範学校、秋田鉱山専門学校を包括して、学芸学部、鉱山学部の2学部から成る新制大学として発足し、その後、昭和45年に医学部が設置されて3学部体制となりました。現在は平成10年の学部改組等により、教育学部が教育文化学部に、鉱山学部が工学資源学部となり、平成16年４月に国立大学法人となっています。法人化になって今年で2年目です。附属図書館は手形地区の本館、本道地区の医学部分館からなっており、医学部分館はもっぱら医学部関係の業務を行っています。沿革関係は、特に平成16年、17年度の法人化後について詳述しています。

理念目標、基本目標です。秋田大学は平成16年の４月から大学法人となりました。このため大学全体としては１、２、３のような基本理念を構築し、５つの目標を定めています。まず１としては「国際的な水準の教育・研究の遂行」、２として「地域の振興と地球規模の課題解決」、３「国の内外で活躍する有為な人材の育成」の３つの基本理念を秋田大学として構築しております。大学図書館は大学設置基準によりまして、教育研究上必要な資料の収集、整理および提供を行うほか、情報の処理、提供のシステムを整備して、学術情報の提供に努めることとされており、大学の学術情報の収集・発信の基盤整備の役割も担っております。一方、以上の役割の他に、①学習者・研究者のための支援の場②学習者･研究者の交流の場③生涯学習及び障害者学習の支援を通じた連携の場として附属図書館の占める役割は非常に多くなっております。図書館の電子化についても、その整備充実が求められています。現実的な動きとしては、平成18年度の歳出概算要求で、附属図書館と総合情報処理センターとの連携強化構想、すなわち学術情報基盤センターというものを打ち出しているところです。

Akita University

以上の秋田大学の図書館の役割、機能を果たすため、秋田大学附属図書館では理念・目標を構築し、また秋田大学の目標に則り、次の通り６年間の中期目標を掲げました。①図書館資料の系統的・計画的な収集、利用時間帯の拡大、電子図書館機能の充実、情報リテラシー教育の充実②入学生向けの利用案内、図書資料、設備の整備③図書館の地域住民への開放、ボランティア活動の促進。これはいわゆる６年間の中期目標ということで定めております。６年間というのは平成16年４月１日から平成22年３月31日までです。

図書館の管理運営組織として、館長、医学部分館長、館長補佐２名がおり、事務部に事務部を統括している事務長がおります。重要事項を審議する組織として、附属図書館の最高審議機関である附属図書館委員会、企画会議、評価委員会、機能検討専門委員会、学生用図書館資料選定専門委員会等の各種委員会があります。これは関係規程も整備しています。事務部には本館に総務係、図書情報係、雑誌情報係、利用サービス係、情報システム担当専門職員を置いております。また、医学部分館には図書係を置いており、総勢27名で図書業務を行っています。常勤職員12名、非常勤職員15名です。他大学と比較しても結構少ない人数であると思います。

図書館のデータや情報の体系的、集約的システムについてです。図書館のホームページにアクセスすることにより、各種の学術情報、図書館利用案内（日本語、英語、中国語、韓国語）、秋田大学の所蔵する図書、雑誌等の情報が得られます。また、蔵書検索システム、学外文献複写システム、図書購入依頼システム、ウエブサービスとして学内ＬＡＮを通じて24時間学内端末からの検索及び申し込みが可能となっています。

貴重図書としては、１番として秋田大学の鉱山専門学校蔵書です。これはかなりの蔵書であり、全国で一つという蔵書でございます。２番シェイクスピアコレクション。３番北方教育資料。これは北方教育社で出したつづり方の資料です。４番教育課程文庫。５番として「詠歌一体」があります。できるだけ多くの学外者に見てもらうためにホームページでも公開しています。特に今年度から大学祭に合わせて貴重図書の公開展示（今年度は北方教育資料）を行いました。平成15年にはシェイクスピアコレクションも一部公開しています。

本館及び分館とも昭和47年竣工です。本館の増築は昭和59年、分館の増改修は平成8年です。このことから、本館は昭和47年から改修しておりません。面積は本館4,515㎡、医学部分館は1,648㎡でございます。蔵書総冊数は本館は約39万冊です。医学部分館は約10万冊です。閲覧室の他に秋田大学コーナー、秋田大学教員出版物コーナー、教科書展示コーナー、国際交流コーナー、グループ学習室を設けて学習資料室の充実を図っています。

新図書館構想です。先ほどご紹介しましたが本館は昭和47年に建てられ築33年を経過しています。このため図書館としては総合情報処理センターと連携して秋田大学の情報収集発信の中心地、シンボル施設となるべく構想案を検討しております。この構想案は地域との連携の場、国際交流の場、学生・教職員の交流・発表の場、その他の教育センター的な機能をも併せ持つ全学総合施設と考えています。例えば学生の部門を取り込むことも考えています。ただ財政難の折、実現には相当の困難が伴いますが、是非実現させたいと考えております。現在担当部局でプロジェクトを組み、具体的イメージ図を検討する段階まで来ています。平成18年度歳出概

Akita University

算要求事項は資料２のとおりです。図書館経費につきましては資料の11ですが、年々減少しております。特に平成16年度からは法人化になり、いわゆる毎年効率化係数がかかり、図書館総予算も毎年必然的に減少しております。

図書館資料及び学術雑誌も年々減少しています。ただし、学生用図書については、当然年々減少していますが、学生の教育重視から平成17年度の学生用図書経費は平成16年度と同額の予算を確保しました。今後もできるだけ確保したいと考えています。また、シラバス記載図書の優先的整備を行う。これは玄関内にシラバス記載図書コーナーがありますが、優先的に全部そろえております。

電子ジャーナルです。図書館の電子化について、大学図書館における電子図書館的機能の整備の必要性が述べられ、整備・充実が求められています。一方、外国雑誌が毎年かなりの値上がりしています。それに伴って電子ジャーナルも高騰しており、大学予算、それから研究室予算に占める比重も大きくなっています。結果的には大学運営費、研究費にとって大きな圧迫になっており、各大学ともその対応に苦慮しているのが実状です。図書館では上記の現状を踏まえ、平成17年に電子ジャーナルのあり方について、ワーキンググループで計4回検討し、答申案を作成して学長に提出しました。その結果、今後電子ジャーナル経費は大学の共通経費で支出することになりました。一つの前進であると思っています。

それから開館日、貸出利用支援等です。現在土曜日、日曜日は午前９時から午後５時まで開館しています。平日は午前８時30分開館ですが、５時から８時までは夜間開館を実施しています。法人化になり平成16年４月１日からは、早朝利用者のため、それまでの平日午前８時45分開館を15分繰り上げ８時30分からの開館としました。なお、平成18年４月１日から、従来の平日午後８時までの夜間開館時間を午後９時までの１時間延長を試行することとしています。学外者も入館は自由であり貸出を行っています。普通に借りられます。なお、午後８時の閉館時から翌朝の開館時までは教員および大学院生に限って自動入退館システムでの入館を認めています。利用案内についてはリーフレット、学外者案内、ホームページ及び図書館だより等で周知しております。広報については図書館だよりを学外を含めて年２回発行しています。ニュースレターは学内向けに大体月１回程度発行するように心がけていますが、大体２カ月から２カ月半ぐらいに１回程度です。

国際交流コーナーは閲覧室の2階に国際交流コーナーを設けて、留学生の勉学交流の場を提供しております。このコーナーには日本語、日本事情、辞書類等の図書を置いて、毎年約50冊程度購入して、大体今350冊ぐらいです。毎年50冊ぐらい充実させる予定です。平成17年度から国際交流協定を締結する大学の概要、冊子コーナーを設けました。現在大学間協定が15大学、学部間が大体10大学です。現在整備中であり、今後充実させたいと思っております。その他、附属図書館として留学生との懇談会を年１回開催し要望等を聞いています。

情報リテラシー教育です。教養基礎教育の一環として、平成12年度から各学部持ち回りで担当することによって開始しましたが、その時に図書館は補助としてやっておりました。平成17年度からは附属図書館が担当し、附属図書館が責任を持つ授業として実施しています。単位を

Akita University

出すということです。授業内容、講師、実習、試験について全て図書館で企画、実施し、毎年授業内容を充実させたいと思っています。図書館職員だけで運営しています。現在の内容は学術、情報、全般についての概論、図書・雑誌の検索方法、それからデータベースによる雑誌論文の検索方法、全国大学図書館で所蔵する資料の検索方法、インターネットの活用方法、オンラインジャーナルの使い方、学術雑誌の検索方法、レポート・論文のまとめ方等です。テキストは電子化されていて自由に見ることができます。パソコンの関係で、定員が約50名しか受講できないので、来年度からは70名ぐらいできるような教室を確保して、充実を図りたいと思っています。

図書館開放ですが、本学は学外者にも開放しておりまして自由に利用できます。特に高校生も来てよく利用しています。この他に秋田大学祭において貴重図書の公開、あるいは公開講演会を実施しております。平成17年度は医学部教授による講演を行い、同時に北方教育資料を公開しました。また、夏休みに秋田大学主催の子供見学会に参加して、秋田県内の親子に図書館の開放、体験教室を実施しております。

それからシラバスコーナー、秋田大学コーナー、秋田県コーナー、秋田大学教員出版物コーナー、教科書展示コーナーです。シラバスコーナーは平成15年度から設置しております。シラバス掲載の参考図書を重点的に整備しており、現在、本館で1,018冊、医学部分館423冊です。秋田大学コーナー等は平成16年度から設けまして、秋田大学で出版している定期刊行物、それから本学に縁のある、例えば内藤湖南（秋田師範学校卒業）の著書類等を展示するコーナーということで置いております。その他、本学教員出版物コーナーも設けており、秋田大学が一目で分かるコーナーを目指しております。これは平成16年度設置で今整備の段階です。少し書物が足りない印象も受けますが、これはどんどん充実させて秋田大学及び秋田県が分かるようなコーナーを目指したいと思っています。秋田県コーナーは主に秋田県関係の刊行物を展示して、県外出身学生や学外者の方を主な対象としています。それから２階にある教科書展示コーナーは、今年から設けました。各出版社の小学校、中学校、高等学校の教科書等を展示しております。これはいわゆる教育実習の学生とか、各先生方が頻繁に閲覧しています。

それから図書館ボランティアです。平成15年に図書館ボランティアを導入し、現在６名のボランティアが登録し活動しております。図書館総合利用案内、図書館見学案内、図書の整理等に従事しております。今年が３年目ですが、来年度からは、従来の図書館総合利用案内とか日常的なこともありますが、プロジェクト的な企画も検討していきたいと考えています。例えば北方教育資料をボランティアがやりたいという希望もありますので、そういうところから、一つの目標を持つ企画も検討しております。以上の他に、毎年ボランティア講習会を開講しています。内容は図書修理講習会で、講師は国立公文書館の修復係長等２名で毎年やっており、序々にレベルを上げていきたいと思っております。将来的には例えば秋田県内の関係の方とも一緒にやれればと考えています。その他、ボランティアと館長、ボランティア委員、図書館職員との懇談会を毎年1回開催しています。

最後ですが、秋田地域の特徴として秋田地区大学等図書館連絡協議会がございます。秋田地

Akita University

区大学等図書館連絡協議会は平成4年3月に設置され、12の大学等の図書館で構成されています。秋田大学は幹事校であります。この協議会は加盟間の学術情報の交換と相互の協力を推進するため、職員の資質の向上を図ることを目的としております。最近の協議会では加盟館学生に対する貸出冊数の増が協議され、一部実施されております。秋田大学の学生の貸出冊数と同じ冊数を貸出するということです。今後はお互いの共同の公開事業、例えば貴重図書の公開事業、それから電子システムによる連結、こういうものを視野に入れた地域等の連帯を深めたいと思っています。

以上で図書館の概要説明を終わります。質疑応答は午後のところで一括して行います。

実地視察を行いたいと思いますのでよろしくお願いします。

【実地視察】

Akita University

当日の評価並びに質疑応答

Akita University

当日の評価並びに質疑応答

【笹本事務長】

それでは只今より秋田大学附属図書館外部評価の当日分の評価並びに質疑応答を行います。

改めて石川附属図書館長からごあいさつ申し上げます。

【石川館長】

本日は秋田大学附属図書館の外部評価を実施するにあたりまして、委員の先生方にはお忙しい中お越しいただきまして大変ありがとうございます。

とりわけ外部評価の先生方には遠路又ご多忙の中、しかも快くお引き受けいただき、最強のメンバーで臨んでいただく形となりました。

外部評価委員の先生を午前中も紹介させて頂きましたが、午後の始めにあたりまして改めてまたご紹介いたします。

（外部評価委員紹介）

【石川館長】

申すまでもなく自己点検評価は2回目ですが、私共が外部評価を受けるのは今回が初めてです。その目指すところは今、大学全体もそうですが、図書館の置かれている状況というのは必ずしも安泰ではなく、自己改革やら職能開発をしなければ明日はないというような危機的状況もございます。そういう状況を改善し、より良い図書館とするためにも、この外部評価等でいただいたご意見を今日にでも明日にでも反映していくための取り組みをしたい。これから認証評価等を控えておりますが、この第三者評価のご指摘というのは非常に重いものがあると受け止め、また期待もしております。つきましては委員の先生方にはどうぞ忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。長丁場に渡ることで恐縮ですが午後の部も一つよろしくお願いいたします。

【笹本事務長】

本学の出席者を紹介します。石川附属図書館長です。図書館の評価委員長でもあります。高田分館長は緊急の用務があり遅れて出席します。次に図書館の評価委員を紹介します。寺井委員、大友委員、及川委員、四反田委員、志立委員、杉本委員です。

附属図書館職員を紹介します。小林事務長補佐、三浦総務係長、加賀谷図書情報係長、高野雑誌情報係長、澁谷利用サービス係長、高橋専門職員、高橋医学部分館図書係長、柏倉図書情報係主任、原医学部分館図書主任、私事務長の笹本です。

それでは引き続き資料の確認をします。事前配布資料ですが資料1の附属図書館沿革から資料22の秋田大学概要までです。ご確認願います。

次に本日の配布資料です。秋田大学附属図書館自己点検評価報告書です。事前にお送りしまし

Akita University

た報告書のコピーと同じ内容です。

実施次第です。これには日程及び委員等の名簿を添付しております。

秋田大学附属図書館の概要です。午前中に外部評価委員の先生にご説明していますので項目だけをご覧願います。

ネットワーク時代の情報リテラシーです。事前に送付していますがお手元に最新のものを提示しております。

最後の評価調査票ですが、外部評価委員の先生には、この様式により正式に3月17日まで提出いただき、それを東北学院大学の遠藤先生にまとめていただくという段取りです。そのあとに外部評価の冊子を作成することになっております。

【石川館長】

それでは本題に入らせていただきます。午前中の打ち合せにおいて、本日の外部評価に関わる実質的な審議について、東北学院大学附属図書館長の遠藤先生に委員長をお引き受けいただいております。つきましては遠藤先生、今後の進行を宜しくお願いいたします。

【遠藤委員長】

委員長として進行させていただきます。次第に沿って進めたいと思います。外部評価委員の先生方から当日分の評価ということでひとり10分程度でコンパクトにまとめてお話いただきます。では加藤先生から順にお願いいたします。

【加藤委員】

それでは私の方から気がついたこと、あるいは午前中実際に図書館を見せていただいたことについて報告します。

まず事前に渡された自己点検評価報告書ですが、学生や職員の生の声を聞き取り、アンケート調査をきちっと行っている。そして内部評価が厳正に行われている。また、その調査について課題と対策が各項目ごとにまとめられている。おおむね全項目について優れているという評価ができます。

ただ同規模の評価をするときに、同規模大学の平均との比較ということですべて評価しているが、これほどの調査、事実に基づいての評価であるので、もっと積極的な評価があってもよかったのではないかと思います。全体的に、比較するときの対象又は目標値みたいなものを何か、あるいはもっと積極的に秋田大学の図書館の日常業務を浮き彫りにしてもいいのではないかという感じがしました。

開館時間については、必ずしも24時間開館にこだわらなくてもいいのではないか。学生の間で日曜日も含めて開館時間についての意見があるようですが、このような予算削減で経費が逼迫している時なので、最も利用度の高いところに集中する等の工夫があってもいいのではないか。そういう意味では午後9時までの延長は、職員の人数等を考えれば非常に頑張った方向として出されていると思います。

Akita University

リテラシー教育及び図書館利用教育ですが、情報リテラシーは今のところ50人くらいの受講生で来年度からはすこし増えるということですが、これからはもっと広げるような方向で進めていくべきだと思います。

日本的な図書館リテラシー教育という意味の、図書館ガイダンスは、新入生に対しここ数年各大学で行われてきている。これについては今大学にみな責任を負わせているようなところがあるが、これは本来であれば小学校・中学校・高等学校で、図書館の利用教育をしっかりやるべきで、今の日本、特に秋田県ではほとんど行われていない。県立図書館ではできるだけそういう機会を作りたいと考え、現在、教育センターなどの教育機関と検討している。そうすればもう少し段階的にしかも短い期間で大学にふさわしい教育ができるのではないか。これは是非必要なことだと思います。

また、図書館を自分達の研究のためにどのように利用するのかという点で、以前秋田大学生に話をする機会があったが、レポートを書く上でもただ安易にインターネットに頼る傾向にあるという声を多く聞いた。そこから一歩でた本当の研究につながるような図書館の利用の仕方というのが非常に大事だと思います。この一歩踏み込んだ図書館の利用の仕方、活用の仕方というものを少しずつでも進めることができればよいと思います。

電子ジャーナルは避けて通ることができない問題です。どこの大学も財源の面で苦労しているようですが、今後全国的な大学共同組織での研究が必要ではないかと思っております。

電子媒体と紙媒体ですが、やはり紙媒体のことも考えなければならない。これは県立図書館でも、電子媒体だけでは保存の面でまだ自信を持って言えない部分があります。保存期間がどの程度であるのかを含めて考えなければならない。

それから職員研修のことですが、学生のアンケートで気になったのは、検索等について、図書館職員への相談の頻度という項目があるが、その点が非常に低い。大学ですから自分の研究室の教授に尋ねれば一番早いわけで、その点は非常に高い。図書館に行ったとき、自分の探しているものをどのように検索するのか、その手助けという面で職員の力を発揮すべき部分がもっとあってもいいと思う。それが将来のアウトソーシングとも絡まってくる。公共図書館においても、研究課題となったのが職員研修です。なぜ職員研修が問題なのかですが図書館のこれまでの流れと違った、新しい面が多く出てきているということです。改めて職員研修が大事だと思います。

地域開放、地域連携については、大学としてのあるべき教育活動、研究活動をいかに充実させるかという点が図書館活動でまず重要であると思います。先生方や学生を助けることが第一義的にあって、余裕があれば地域連携をというのが私の気持ちです。しかし最近の評価の方向を見ると、社会貢献が非常に大きな視点となっている。これから秋田大学が社会的に高い評価を受けるとすれば、やはりこの点をもっと大きく考えていかなければならない。今後、益々社会的な評価の比重が大きくなると思います。そういう意味で一館でやれば大変なエネルギーも使われるので、例えば県立図書館と連携するとか、講演を行う場合に秋田大学ではなく県立図書館又は市立図書館などを会場とする。そうすればお互いにやれる部分が大幅に広がると思います。連携によってお互いがプラスになる方向、一方的な開放ではなく両方がメリットになるような連携であれば公立図書館なども一緒にやっていけるのではないかと思います。これからそういう関係を強めるこ

Akita University

とが社会の評価につながってくると思います。

本日視察して、最初は医学部の貸出本冊数や日数が短いと思いましたが、一冊の単価が非常に高い、このため副本を簡単に求めることができないので回転を早くするという工夫をしているということがわかった。

コレクションとしての教科書コーナーですが、秋田県で揃えているところはほとんどなく教育センターでも困っている。教科書コーナー、教育課程文庫をもう少し整理したら、秋田県のみなさんが求めている特色あるものになると思います。

北方教育については、かなり整備が進んでいると思いますが、戦後のガリ版刷り等で紙質の悪いものがあります。職員の数と仕事量の問題もあるので簡単にはいかないと思いますが、その保存を早めなければならないと思います。

その他、環境についてですが、静寂度などの利用者に関わることは非常に行き届いている。しかし、建物や空調設備についてはこれから整備していかなければならない課題である。

【佐藤委員】

教育機関であるので図書館があることは承知していたが、一般市民に開放していることは最近までわからなかった。それで近くの記者に聞いてみたら、半分くらいが「エッ、そうですか」、「今の時代ですからそうかもしれませんね」ぐらいで、大学図書館が学外者も受け入れていると明確に言ってくれる人はいませんでした。一般市民が利用できるという点については、まだまだ知られていない。市内には県立図書館、市立中央図書館明徳館があるが、それに一つの加わっているわけで、そういう意味では市民としてはありがたい。ただ、ここは大学ですので研究及び人材育成というのが一番の使命です。図書館にとって何が大切かと言えばやはりそれに見合った蔵書を整える、そういうことを第一義に考えて、あまり学外者に媚びないでほしい。あくまでもここは大学であると理解してもらった上で学外の方々に利用していただきたい。

私も役割を仰せつかったので午後2時以降初めてこの図書館に来てみた。別に歓迎されたわけでも、嫌がられたわけでもなかった。平日、市民の男性2人が新聞を見ていたが、仲間が少なくて気後れしたという感じでした。ただ学生たちも市民に対して、「なんだこの人」というような感じもなく、そういう意味ではいやな気持ちは受けなかった。

大学の図書館を市民にどう利用してもらうかについてはいろいろ意見があると思います。私はやはり市民を味方に付けるということだと思います。この図書館で満足した、いわゆる精神的な満足が得られたということは将来的に大学をサポートする人たちを作っていく、そういう形でプラスになると思います。

かなり難しい本が多いが、中には手にとれる本もあります。費用対効果という面からは、学生、教員だけでなく、数は少なくても市民も利用できたということは、そういう意味でもプラスになると思っております。

やはりまず、図書館として来てもらう、知ってもらうという努力をしなければならない。それには去年も実施した講演会、子ども対象のイベント、こういうもので扉を少し大きめに開けるということが大事だと思います。大学独自で他にも講座があると思いますが、専門の先生がいるの

Akita University

で例えば文学関係、健康又は医学についてわかりやすい講座を図書館で開催し、関連する図書も紹介すれば、非常に市民の目が向くのではないか。具体的には、夏休みに子どもたちにもう少し便を図るイベント、例えば動植物の本のコーナーを設ける、あとは日によって相談コーナーを設ける等、目線をぐっと下げた、また、学生も一緒になって行う、そういう形で市民と子どもたちとのコンタクトをとっていけたらと思います。

将来的には、07年度から団塊の世代が退職するということで、図書館の利用というのは増えると思う。県立図書館でも明徳館でも何となく時間を過ごしている人たちが結構いて、勉強目的の人との兼ね合いというのは難しいと思います。純粋な使い方ではないが、それはそれで図書館の一つの市民利用としてこれから大きなウエイトを占めると思います。そういう人たちへの対処を考えればもっと親しまれる図書館になると思います。市民利用についてのアンケート項目がなかったので、これから調査して大学としての対応の一つの資料にしていただきたい。

社会との連携の自己点検評価の中で16年度の学外者への貸出登録は108人であって、12年度から16年度の間の貸出統計によるとこの5年間において学内者への貸出冊数がほぼ一定なのに対して、学外者への貸出は2倍近くに増加しており、評価として学外者への図書館利用サービスについては良好であると結論付けているが、この意味を教えていただきたい。

アンケートの中で非常に気になったのは必要な本が少ない、古い本が多いという意見です。必要な本が少ないというのはいろんな理由があると思いますが、選定方法に不都合があるように考えられます。選定委員会の機能の見直しということが、現実的に必要となるのではないか。図書にかける予算が非常に少なくなっているので、合理的な選定が必要になると思います。

そこで一つの提案ですが、この本はもう期限が切れているというシールを貼り、学生に不用ボックス等にいれてもらう。それについて更に篩にかければ漫然と取って置くことがなくなるし、スペースも非常に有効に使えると思います。

図書館職員はもちろん努力していると思いますが、あまり機能していないことが数字に表れており、非常に気になった。図書館の利用方法、検索方法に対して、図書館職員が数字上は機能していないということは、研修内容にミスマッチがあり、一番大切などう利用してもらうかということに関して対応できていない状況になっている。市民がここに来て、一番頼りにしたい人が存在しないとなれば非常に問題がある。機能するような研修又は業務内容にしていただきたい。

視聴覚教材及び利用者数も少ない感じがします。アンケートでも学生の利用というのは意外に少ないと感じました。医学部では対応するDVDとかビデオ等で機能している場合もあるので、それにならって非常に専門に特化したDVD等を集めてはどうか。例えば、声楽のDVDが欲しいという要望があったのでモーツアルト等のものは全部揃える、又はインドネシア語が全部揃っている等専門に特化した教材を並べてはいかがか。古いレーザーデスク等は不要です。

蔵書検索システムは非常に使いやすい。あるキーワードを入れてパッと見てみたが、こんなに本があるのか、すごいなということで一市民として心の豊かさも覚えた。ただホームページの中で図書館の入っていくところが非常に小さい。最初に画面に隠れて出てこないので、もう少し自信を持って上の方でPRしていただきたい。

Akita University

【高橋委員】

学外者また利用者としての立場を中心にお話しします。

全体的な問題ですが、今回のさまざまな資料、取り組み等について並々ならぬ強い意欲を感じた。また新しい図書館構想もそういったことの強い意思の表れと思った。出てきたデータ・資料等の分析も問題点を的確に摘出しているように感じた。そのような意味では中長期的な計画・目標の中に図書館の緊急な課題として出ているので、改革の中心に据えられるよう願っております。

3つの理念、7つの目標も高く評価できるし、これを強力に推進することを願っています。

私がこれから申し上げること、及びこれまで委員の方が話したことは、学術情報基盤センターが具体化されると一気に解決すると思います。それには大学のみならず同窓会又は地方自治体を巻き込むような体制にすることが案外立派な、よりよいものになっていく。そうすれば国の予算措置も付けてくれるのではないかという気がします。国の予算はぎりぎりまで押さえられるが、例えば自己資金として同窓会からのお金があれば自由裁量にできる部分がかなり出てくるわけで、総予算のうち自己資産が何%かがあるとないとではずいぶん違ってくる。

ともかく今の図書館は教育学部の図書館というイメージが抜けない。やはり全学のシンボル的なものにしてもらいたい。

管理・運営について、リーダーの方針、力量が大きな比重を占めること、それは非常に大事なことでこれからもはっきりさせていくべきである。また、それをサポートする組織であってほしい。組織体制を見ると館長の負担軽減を考える余地があると思う。館長が主催する会が多すぎる。館長補佐又は別の立場の方々がもっとサポートしてもいいのではないか。館長の任期が2年で館長補佐が1年というのはどういう事情なのか。

次は施設・設備の問題であるが貧弱だと思う。何とかするためにも新しい図書館にするべきである。新しい本が入っても見栄えがしない。薄暗い所に入っていると、いつその本が入ったのか、背表紙も見えないという感じです。例えば座席数も他の大学と同じくらいですが、座席間又は後ろの席との間も狭苦しい。机、椅子、書架が新しくなると閲覧室らしい雰囲気にもなろう。学生食堂の方が立派だというのは情けない話です。

図書資料ですが、私は国文とか歴史しか見ませんが図書の選書方針は目に見える形で進めてほしい。このままでは教官・学生の欲求不満がたまる一方のようで残念です。なぜそうなのかと考えると、図書が少ないということもあるし、教官、先生方自体は非常に恵まれた状況で研究して来た。それから入学してくる学生はかなり恵まれた条件の学校で勉強してきている。高校の図書館は結構充実おります。椅子もむしろ高校の方がいい椅子を使っている。そういった点からもこれが大学だというような図書館であってほしい。秋田大学附属図書館で誇れる点はこの部分であるということがどこにも出てこないのが非常に残念です。

ある資料に特化して充実し、そのスピードを上げていくのも一つの方法です。学生レベルの専門書の更新も遅れている。資料の割合の7割以上が1980年代以前ということは肝心なものが揃っていないということです。ものはあるけれども大事なもの又は必要なものが入っていない。実際調べるのに助かったという本もあるにはあるが、なんだこの程度のものも入っていないのかということも多々あります。

Akita University

学生が入学して研究をスタートする時、スタート段階に使う基本資料に対し教員の目配りがもっとあっていいのではないか。秋田市にはまともな本屋がなく、教官が紹介するような本は先ずないといってもよいかもしれない。そうするとやはり図書館にということになる。秋田では大学が本屋を育てるという役割も担うことになる。秋田の場合には本屋が育ってないし、大学周辺にきちんとした本屋がないということ自体さびしい。学生のための本に少し目配りしていただければありがたい。

ビデオ又はCDはあのレベルではなくてもよく、その分本に向けた方がいい。

シラバス、新刊図書の配列は非常に工夫されている。図書館員自身が苦労して学生の教育に反映するようにしている。

書庫は開架されていますが、学生があそこに入っていったときに本の所在がわからず、戸惑うのではなかろうか。例えば開架一覧的なものを棚へ表示すればよいと思う。

記名なしで簡単に書庫に自由に入れる。信頼してもらうのはありがたいが、貴重な資料も相当あるので、例えば書庫に入る人はきちんとカードを出すことが必要ではないか。

新しい構想の中に児童図書コーナーがある。例えば附属の小・中学校がそばにあればわかるが離れた状況の中でどう考えているのか。明徳館でも児童図書コーナーがあるがその違いは何か。もっとこの辺を論じなければ、ビデオコーナーみたいな形になりかねない。

【遠藤委員長】

理念と目標をきちっと掲げていることは感心させられ、これは見習わなければいけない。さらにこれが年度計画の具体的事項とどう結びついているのかということについて、もう少し明確になっていればなおよい。

貴重図書の整理を緊急に実施する必要がある。貴重図書が散在して整理されていないのでこれを至急やっていただきたい。

貴重書についてはもう少し慎重に扱った方がいい。保存環境が必ずしもよくない中で保存されている。

図書館は、情報があればよいというのではなく、情報にどういう形で接して、どう利用するかという環境が大事である。施設・設備の老朽化というのはこれは大変残念な環境です。予算の関係があってなかなか難しいとは思うが学生達がかわいそうである。環境整備を是非やっていただきたい。その他、雑誌とか閲覧の場所がバラバラになっている感じで、使い勝手が悪い。

それでは外部評価委員からの質問に対して、秋田大学から説明願います。

【杉本図書館委員】

学外者の貸し出しの質問ですが、この件に関しまして学外者の貸出登録者が180名ということです。そういう意味で増加していると判断しました。この制度は5年前から始まり、それ以前は館長が認めた者だけに貸し出ししておりました。

Akita University

【笹本事務長】

必要な図書が少ないということの背景についてお答えします。

学生用図書の購入ですが、各学部２名の教員から成る学生用図書館資料選定専門委員会で選考方法、予算等を含めて検討しその後は学部単位で重点的に選ぶという仕組みになっております。選定の基本は①予算の範囲内で授業科目との関連等を考慮して必要度の高い順に選定する②必要に応じて複本も考慮する③出版・目録等を幅広く参照して適切に選定する④重複した場合は図書館に一任する⑤取扱いが困難な価格の安い資料は極力選定の対象外とするという基準で選んでいます。授業科目との関連等を考慮して必要度の高い順に設定することを最優先しています。

学生用図書については正面玄関前にアンケート用紙を置き学生の意見は吸い上げています。ただ予算が限られて、全員が満足するのは無理であるため、その点で学生から意見が出てくると思います。

また、古い本が多いという点については、予算が限られており、新しい図書を購入しても埋没してしまうというところだと思います。

【石川館長】

補足します。医学部はともかくとして教育文化学部及び工学資源学部は平成10年に学部改組しました。それまでは国語なら国語、理科なら理科というジャンルの中で図書を収集すればよかったが、学部改組して例えば教育文化学部ですと教員養成以外の多様な人材を養成するということで、その分学生たちのニーズが非常に多様な学の世界が開けたこと、また、これに伴いその分野の図書資料の収集が７、８年後の段階では必ずしもまだ追いついていないという側面があると理解しています。鉱山学部関係の資料はあるが工学資源学部の資料となると、まだ歴史が浅いので少ないのは否めないわけです。大学の図書館がそれでよいのかと言われると忸怩たるものがあります。

【笹本事務長】

児童図書コーナーの件ですが、佐藤委員からお話がありました、いわゆる子どもの夏休み期間中にコーナーを設けるということを常態化したものを考えております。ただし具体的にはこれから検討する予定です。地域の子どもに図書館を身近に感じてもらうための一つの試みという構想です。

【高橋委員】

退官した教官の図書の受け入れ基準はあるのか。例えば北方教育の資料は残されたが、戸田先生が教育史を書くために使われた資料がたくさんあるはずであるが見当たらなかった。

【加賀谷図書情報係長】

寄贈の方の基準は特に設けていません。その都度対処している。

Akita University

【小林事務長補佐】

寄贈された本については、精査して受け入れるべきものは受け入れている。例えば重複等のものは処分することを確認した上で寄贈を受け入れています。

戸田先生の北方教育資料については、予算的及び人的な面から整理が滞っている状況です。

【遠藤委員長】

それでは、秋田大学附属図書館の評価委員から、「外部評価委員会委員から見てこの点はどうか」というご質問をお願いします。

【寺井図書館委員】

私は管理・運営担当ですが、一番関心を持っていることはやはり学生の利用等です。学生が必要とする資料が揃っているのかについて事務長から説明があったが、学生に提供する準備資料は、理解を深めるために授業中心の資料となります。しかし、授業と直接関係なくて、間接的にこういうことが知りたいという学生側のニーズもあり、それを全部揃えるのは限られた予算では難しい。教育を基本としながら、学生にとって本当に必要な資料の把握、またそれを提供していけるかという限界又は対応できる範囲というものを把握しなければならない。

実際に図書館を利用している学生は何割かをはっきりしないといけない。

【大友図書館委員】

今の学生は、求めているものを図書館よりもインターネットを利用して手に入れる。特に医学部系のキャンパスにいると、その点が目立ちなかなか図書館に足を向けない。また、本の整理の方法であるが、それは検索システムである程度可能となっていると思う。

【及川図書館委員】

施設及び設備の担当ですが、量的なものだけでなく質的な面からも再度検討したいと思っています。

【四反田図書館委員】

利用サービス担当ですが割とうまく機能していると感じています。古い本が多いということも痛感しています。古い本が多いので不要な本はどんどん処分していけばいいが、なかなかできないというのはご指摘のとおりです。例えば私自身は専門が音楽ですが、文学作品についての資料が欲しいというときにはうちの図書館でなく県立図書館に行っています。音楽関係の図書についても県立図書館の方が充実している。その辺がなんとかならないかといつも思ってます。

システムそのものはうまく機能しても、実際貸し出す本がきちんとしなければ無意味です。これから充実させていく必要があると思います。

留学生に対する図書館サービスについてはどう感じましたか。

Akita University

【遠藤委員長】
留学生コーナーを設けておりきちんと配慮をしていると感じた。

【高橋委員】
留学生の一番困っていることは日本語をいかに覚えるかということです。さまざまな講習や、インターネット情報の充実を図り、情報を提供した方がいいと思います。

【加藤委員】
留学生コーナーを設けたことは大きな進歩だと思います。秋田県の場合、留学、外国籍の学生に対しての対応は進んでいない。その中で秋田大学附属図書館は、非常に積極的に取り組んでいると思います。経済的に逼迫した状態では一館でやるのは大変だと思います。外国籍の人たちに対しての県の施策もいろいろあり、そういうパンフレット類を大学に置くこともいいのではないか。県立図書館及び大学図書館で、外国向けの資料を相互にPRして、予算的に厳しい状況を乗り切ってく。連携でプラスになる方向が見出せる。そういう意味で幅広い広報が必要である。スタートしてこれから始まるんだという思いで、非常に積極的な意欲を感じたところです。

【遠藤委員長】
東北学院大学には、特別にコーナーはない。
国際交流課で図書だけではなく生活面等のサポートも行っています。日本語教師を育成するコース等語学的なサポートもやっている。基本的には国際交流課が対応している。

【佐藤委員】
コーナーがあると、留学生から見れば心強いし、温かく迎えてもらっているという気持ちになる。ただ、あのコーナーに机が配置されているのはサービスのようでサービスでないような気がする。留学生だけが集まって本当の交流ができるのか。本はもちろん目立つように看板等で区別するが、その他はむしろ一般の人と交じって勉強したり、本を読んだりした方が交流が進むのではないか。

【小林事務長補佐】
日本の学生が勉強することも可能ですし、逆に留学生が一般席で勉強することも可能です。一般の学生はなるべくご遠慮してくださいという使い方がよいと思っている。

【石川館長】
あのコーナーは種々な可能性をはらんでいます。例えばCNNテレビなども設けて即時的な自分の国のニュース、情勢等のキャッチあるいは情報交換ができる場にしたいという理想があります。また、書物類だけではなく、その留学生の母国の品々等をガラスケース等々に入れて陳列し、それを媒介に日本人学生と留学生が交流できればいいと考えています。提言を広くいただき、も

Akita University

っと使いやすい形にしたいと思っています。

【志立図書館委員】

私は図書館資料及び学術情報の担当です。まさに一番指摘の多い分野です。資料が古いことについて、これは予算的なこともあり、例えば教員一人あたり学生用図書予算は2、3万円です。国文学の分野ということで私が推薦する本というのはせいぜい年間数冊しか買えない。国文学は私ひとりですから、まさに学生にとっては足りないということになる。教育文化学部、工学資源学部とも、非常に多様な分野を抱え込んでいるため、学生はものすごく幅の広い興味をもってしまう。これまで国語教育だけを買っていれば済んだのがそうはいかなくなってきている。その辺の事情をご理解頂きたい。

ご指摘がありました図書館職員があんまり機能していないということ。これはやはり大学図書館という性格上、どうしてもレポートを書く又は勉強する場合、まず教員の方に相談にくる。したがって、必然的に教員がアドバイスすることが第一義的にでてくる。教員側としては「教授は役に立ってない」となるよりはよいと思っています。

書庫に誰でも入れる点については、職員数の問題との関わりがあります。閉架式で職員しか入れないということになると、専従の職員を増やさない限りは到底無理であり難しいということになる。

検索に関しては、県立図書館が中心になって公立図書館と同じネット上で検索ができるようになっているが、大学の図書館は入っていない。せめて秋田市内にある本は一括して検索できるシステムがあると学生としては利用の便がいい。そのようなシステムができると助かる。

【小林事務長補佐】

システム的には、秋田大学ホームページでは、県立図書館と市立図書館の検索がネット上でリンクされている。インターネットで探すと、大学、県立図書館又は市立図書館にあるというような横断検索機能をシステム上に盛り込むことは、将来的には可能だと思う。

現在、県内の12大学等の図書館で作っている秋田地区大学等図書館連絡協議会があるが、すでに、実施済みのシステムとして他大学の図書館の学生が秋田大学の学生と同じ冊数、期間で利用できる。普通の学外者よりもちょっとプラスαの部分があります。又、横断検索については、県内の4年制の大学はそういうシステムを持っており、又、他県でも実施しているので県立図書館等も含めた秋田県のネットワークができればいいと思っております。

遡及入力は、現在年間7、8千冊を目途に2人専任で入力しています。新着図書及び古い図書を併行して入力していますが、入力が遅くなっているのが現状です。年度計画を立てながら入力しているが、教員返却分の未入力分もあり、あと5、6年かかる予定である。

【高橋委員】

例えば、国語関係及び人文関係の冊子は人文関係研究室の書架にあるが、それも早く入力願いたい。

また、大事な本も結構あるし、又、ある専門の先生がいなくなったために未使用となっている

Akita University

本もあるので同様に入力願いたい。

【志立図書館委員】

できるだけ図書館に返すように働きかけているが、量が膨大であり、また、図書館の書庫に空きが少ないため整理しながら受け入れているのが現状である。その他に個人研究で買っている本もあり、管理が一元化していないのが現状である。

【杉本図書館委員】

電子図書館化及び情報リテラシー教育。社会との連携。県内大学等の連携。自己点検評価体制等を担当した。なかなか評価がしにくい分野です。例えば、大学としてどのような方向にすべきかという特化した問題と一般の方に対し、どのように開放、周知させていくのかとの関係はなかなか難しいと思っている。また、どれくらいの間隔で評価を行っていくべきか教示願いたい。

【遠藤委員長】

東北学院大学では大学全体の自己点検評価の中で図書館の評価はするが、図書館独自の評価はやっていない。むしろ教えていただきたいと思っている。

【高橋委員】

一般の学外利用者及び現職の学校教員の立場からは、例えば、「大学図書館であの本があった筈」という同窓生的感覚、又は現職の学校教員が教材をより深く調べるために大学図書館を利用するといった、ある程度特化したものでいいと考えている。

【佐藤委員】

私もそう思います。

【高橋委員】

新聞を見た後ぶらっと出て行くことが市民開放ではないと思う。例えば高校の授業である教材（例えば史記）が出てくる。史記は専門ではないが秋田大学附属図書館のコーナーに史記があり注釈がある。そのようなニーズに応えることが秋田大学にとって非常に大きな意味を持つ。県内にそういうものが少ないだけにそういう役割をお願いしたい。

【小林事務長補佐】

以前秋田県の工業技術センターの方が学外者として専門書を見に来るという場面があった。工学資源関係いわゆる工学技術系関係の専門書は、県立図書館等その他の図書館では少ないと思うので、秋田大学の蔵書は貴重と思われる。この意味から特色ある図書を揃えていくことは必要である。

Akita University

【高田分館長】

秋田大学の図書館であるが、本館と分館ではそれぞれ専門、建物及び本の種類も違うので、可能ならば正式の評価報告は本館と分館に分けていただきたい。

【遠藤委員長】

共通するものが多いと思うが、分けることができるものはできるだけ分けて評価をするようにしたい。

【加藤委員】

医学部分館の一般利用者はどのくらいか。最近一般公立図書館ではビジネス支援と地域医療支援を行っている。

【高橋分館図書係長】

どの程度の人が入っているのかは把握はできない。例えば医療関係者、特に医者からは、メール又はFAXで文献の要望がくる。これにはすべて答えているので把握できる。しかし一般利用者がどの程度なのかは掴めていないのが現状である。

本館のように図書館にきて読書して帰るという利用者はほとんどいない。求めている資料を入手したら帰るというケースがほとんどである。

【三浦課長】

セキュリティー上及び統計資料のためにも、磁気システム等による入退館導入の方向で早急に改善した方がよい。簡単に言えばIDカード（学生証）で全部処理するということである。

自由に入れることは開かれた大学で本当に素晴らしいことであるが、セキュリティー等を考えると、入館許可書等で処理する形が必要と思う。入館システムについてはセキュリティーを基本に考えた方がよい。

【石川館長】

データが積み重なったところの目指すところは、どういうところですか。

【三浦課長】

まず学生がどんな本をどう利用しているかを把握できれば、それがカリキュラムに反映できる。また、一方では、学生のニーズだけでなく、図書館としてはどの分野の本をどう揃えていくことが教育的に望ましいかを把握できる。図書館及び教育研究の両面にメリットがあると考えています。

基礎的なデータ集めということで、例えば文献複写申込ではペーパーで書く分が結構あるが、簡単に言えば学生証で全部処理できる。ITを利用し少ない人数でやるとしたら、そのようなことも考える必要がある。

Akita University

現在遡及入力を２人でやっているが、どう考えても２人では絶対に不可能である。早くデータを処理しないと学外的に何もできない。廃棄するにもそういうデータが必要になってくる。これが原点、出発になります。退職教員分等についてはまず登録することです。今の２名体制では５年でも不可能です。本というのは廃棄処分が難しいのでどんどん溜まっていきます。

【石川館長】

中にいると気がつかず恒常化してしまい、改善に結びつくということがなかなか難しい。まさに目が覚めるような発言を頂戴しありがたく思っています。平素学生と接していると、図書館長の立場上図書館をどの程度使っているかという話をするが、30名のうち10名くらいで、あとの20名は大学に数年いてもほとんど図書館を利用したことがない。図書館の資料は授業料を含む国の税金を使って揃えているのでそれを活用しない手はないと、懇々と説いています。

日本の文化と関係するが、学生が書物を購入しない傾向が続いており、携帯電話で情報収集等していることが目に付きます。辞書にしても電子辞書で賄っているという状況があり、これが図書館の活用につながっていない一因であるという印象です。

学生一人が図書購入に充当する金額は、インターネット等の普及もあるが10年以上前に比べれば半減以下ではないか。教養を深めるということからすれば非常に逆行している。

個性、特色を持つべきだという提言を非常にありがたく思っています。秋田大学１機関では、財政の問題もあり改善及び努力を重ねても限界があります。限界を越えたところでどのように支援サービスを充実させるかが課題であり、県内、県外を越えて連携等を進め、そこを最大限に利用し、私共の不足をカバーしていきたいと思っています。

18歳人口がどんどん減少していく中、利用者を第一とした図書館づくりをしないと見捨てられ大変なことになるという危機感を持っています。そのための自助努力、改善には渾身の力を込めて取り組んでいきたいと思っています。

本日お話いただきましたことは今後の取り組みに必ず反映したいと思っています。

【休憩・講評打合せ】

Akita University

講　　評

Akita University

講　　評

【遠藤委員長】

それでは講評という形でまとめて報告いたします。全部申し述べることができないので、重要と思う部分をいくつか申し上げ、細かいことは後ほど報告書という形で提出いたします。

次の３点を高く評価しました。第１点として３つの理念、７つの目標ということをきちんと定めている。そして、それに沿って計画を立てて図書館の整備を進めているという点は、外部評価委員全員が大変感心させられた点であります。

２点目は、利用者サービスについて、例えばシラバスに対応した本を揃える、開館時間を延長する等利用者サービスに大変努力している。ただし医学部の開館時間は医学部にしては少し短いのかなという意見もありました。

３点目は、ホームページが非常に充実していて、よく整備されております。英語だけではなくて中国語、韓国語もあり、利用者に配慮したホームページになっていて、大変素晴らしいという意見がでました。

次はご努力願いたいということで全部で６、７点あります。

第１点は、３つの理念、７つの目標が中期目標の中にどう反映されているのか。その中期目標自体は大変素晴らしいと思う。是非大学全体の計画の中心にこれを位置付けていただくよう努力願いたい。そしてこのことを大学全体の緊急の課題とすべきではないか。やはり図書館というのは大学の心臓部であるので、この附属図書館の中期目標を大学全体の中心に位置付け、緊急の課題とすべきではないか。それには館長のリーダーシップとその館長を支える学内の体制づくりが必要である。

第２点はこの図書館全体の環境についてです。椅子、机、床等の未整備、地震があったらだいじょうぶかなというような書庫のありかた、エアコン等も含めて要するに物理的な環境整備です。書架の配置もバラバラになっていて、本を取りに行くのに事務室を通っていかなければならない。そういうようなことも含めた環境全体の整備を検討いただきたい。エアコンの整備は利用者にとっても必要であるが、貴重な文化財の維持にとっても重要である。

第３点は、秋田市内の他の図書館との横断検索体制の整備について早急に努力願いたい。また、これに付随して横断検索ができても秋田大学の図書館の遡及が６割程度というのでは横断検索の意義が半減します。早急に遡及を進めていただきたい。それにはやはり年度計画を立てて、あと３年以内あるいは５年以内に完了するというぐらいにしないとできない。これは秋田大学のご努力でやるしかないが、アウトソーシングという方法も考えられるのではないか。以上について検討の上進めていただきたい。

第４点は、先ほど館長から話があったが、学生用図書購入予算を前年度と同額を堅持したことはその努力について高く評価した。是非これを堅持するとともに、更に充実願いたい。また選書機能について、学生用図書及び研究用図書のバランスをどうすべきかという検討も含めて、選書機能の充実を図っていただきたい。教員はどうしても自分の専門書、あるいは専門に近い分野に目

Akita University

がいってしまうので、教員だけに任せておくとバランスのよい選書ができない。選書機能がきちんとできる図書館職員を育成していくということも大事である。
第5点は、学外の利用者について大変開かれた図書館だという点は高く評価するが、逆にこれで大丈夫かという心配もある。学外利用者に対するリスク管理という点について今後の検討課題と思います。「リスク管理に十分配慮した上での開かれた図書館」ということを考える必要がある。
最後に、不明図書についてです。遡及を進めていくと不明図書はどうなっているかという問題が出てくるはずだが、現状ではよくわからない。一つの場所が狭くなってくると追い詰められて廃棄せざるを得ないという状況が生まれる。そういうことも含めた蔵書管理についての基準を作成願いたい。

【石川館長】

講評として頂戴しましたうちの3件について、お褒めに与かり大変感激しております。努力点について6点頂戴しました。そこのところが私共がある意味では最も期待していたと言うか、この外部評価の生命線といいましょうか、それを頂戴して大変ありがたい次第であります。一つ一つがともすれば内部におってはなかなか見えない部分を包括しております。今ここに示された中には非常にハードルが高いのも含んでおり、非常に厳しい思いをしております。しかしかけがえのないご提言でございます。これを克服するために陣頭に立ってあらゆる方面に実現できるように働きかけ、努力をしたいと言うことを申し上げたいと思います。
先ほど申し上げましたが、秋田大学の中心に図書館があるということの意味と思いをぶつけまして、併せてこれらの実現を図る。これはひいては利用者のとりわけ学生のためになるということに尽きると考えています。建物の構造的なこともありますが、まず意識改革が大前提という思いを強くいたしました。その点を大いに反映して今日頂戴した課題克服並びに社会貢献の方面に努めたいと思います。
第三者でなければ見えないところまでポイントをはずすことなくご指摘いただき、厚く御礼申し上げます。
今後外部評価の報告書をまとめますが、最後までご指導方よろしくお願いいたします。本当にありがとうございます。

【笹本事務長】

それでは以上を持ちまして秋田大学附属図書館外部評価委員会を終了いたします。今後とも外部評価書報告書の作成等のご指導宜しくお願いいたします。本日は大変お忙しい中、また長い間どうもありがとうございました。

Akita University

参　考　資　料

Akita University

秋田大学附属図書館沿革

昭和24年	○秋田大学発足（学芸学部・鉱山学部） ○秋田大学附属図書館沿革発足（図書館委員会設置）
昭和42年	○学芸学部が教育学部に改組
昭和45年	○医学部発足
昭和47年	○本館（手形地区）及び医学部分館（本道地区）新築竣工
昭和52年	○学生用図書選書委員会設置
昭和53年	○夜間（時間外）会館開始
昭和59年	○本館増築工事完成（新館書庫に集密書架設置）
平成元年	○図書館業務の電算化開始
平成２年	○医療技術短期大学部図書室が医学部分館と統合 ○視聴覚コーナー設置（本館）
平成３年	○ブックディテクション装置（無断持出警報装置）導入（本館） （カバン・コート類の携帯が自由となる）
平成４年	○平日の開館時間を15分繰上げ（8:45～20:00） ○行政機関の休日に関する法律等により土曜日休館 ○自己点検評価書刊行
平成５年	○図書館電算システム更新 ○土曜日会館開始（9:00～16:30）
平成６年	○入・退館管理システム導入（本館・分館） ○ブックディテクション装置（無断持出警報装置）導入（分館）
平成７年	○国際交流コーナー設置（第２閲覧室）
平成８年	○分館増築・改修工事完成
平成10年	○教育学部を教育文化学部へ、鉱山学部を工学資源学部へそれぞれ改組 ○図書館電算システム更新
平成11年	○機能検討専門委員会設置
平成12年	○事務組織改組（総務係・図書情報系・雑誌情報・利用サービス係・情報システム係・図書係）＊情報システム係は平成16年４月１日から情報システム担当専門職員１名となる ○情報リテラシー教育開始
平成14年	○日曜・祝日開館開始（9:00～17:00） ○図書館電算システム更新 ○シェイクスピアコレクション公開
平成15年	○自動貸出返却装置導入（本館） ○学外公開（秋田大学定期講演会「秋田再発見」の一部を附属図書館を会場として公開） ○国立公文書館の協力によるボランティア講習会開始（毎年１回開催）
平成16年	○国立大学法人となる ○法人化に伴う附属図書館中期計画（平成16年度から平成21年度までの６年間）を策定 図書館資料の系統的・計画的収集 利用時間等の拡大 電子図書館機能の充実・情報リテラシー教育の充実 留学生向けの図書管理用案内、図書資料及び設備の整備 ○館長補佐制度導入 ○主要な政策等を立案する企画会議の設置（構成：館長・分館長・館長補佐） ○秋田大学コーナー（内藤湖南等の掲額等）、秋田県コーナー及び教員出版物コーナーの設置 ○平日の開館時間を15分繰上げ（8:30～20:00） ○法人化に伴う各規程整備 ○留学生との懇談会開始（毎年１回開催）
平成17年	○理念・目標制定 ○自己点検・評価書刊行 ○学部評価実施 ○電子ジャーナル経費の大学共通経費化了承 ○子供見学会の実施 ○大学祭における北方教育資料の公開並びに公開講演会実施（講師：本学医学部教授） ○各社出版の小学校・中学校・高等学校教科書コーナーの設置 ○国際交流協定締結大学の概要・冊子体コーナーの設置 ○附属図書館が担当する授業科目としての情報リテラシー教育実施

Akita University

秋田大学附属図書館外部評価資料一覧

＊（　）数字は自己点検・評価報告書の主な対応ページを示す

1．附属図書館沿革（p39）
2．平成18年度歳出概算要求書（p２、p４）
3．附属図書館組織図・事務組織図・所掌事務一覧（p３、p４、p５）
4．ふぞくと関連委員会及び議題一覧（p３、p４、p５）
5．学生用図書館資料整備に関するアンケート調査結果一覧
（学生用）・（教官用）（p５、p６、p21）
6．図書館機能の整備に関するアンケート調査結果一覧（p６、p28、p32）
7．附属図書館職員各種研修会等一覧（p７）
8．附属図書館規程（p８）
①附属図書館規程　②附属図書館委員会規程　③附属図書館評価委員会規程
④附属図書館学生用図書館資料選定専門委員会規程
⑤附属図書館機能検討専門委員会規程
⑥附属図書館館長補佐の取り扱いに関する申し合わせ
⑦附属図書館企画会議の設置に関する申し合わせ
⑧附属図書館利用規程・附属図書館利用細則
⑨附属図書館図書管理要項・蔵書構築基本要項・学生用図書選書基準
⑩附属図書館文献複写規程・文献複写料徴収要項
⑪附属図書館におけるセルフ自動コピー機による文献複写取扱要項
⑫附属図書館ボランティア受入要項　⑬附属図書館医学部分館図書委員会内規
9．附属図書館ホームページ
①附属図書館所蔵稀覯本一覧・貴重図書（p９、p24、p34）
②附属図書館利用案内（日本語・英語・中国語・韓国語）（p９、p29）
③附属図書館蔵書検索システム等関係資料（p９、p31）
④学内刊行学術雑誌の電子化大学及びWebサイト資源検索関係資料（p９、p24、p31）
10．附属図書館総面積・用途別面積・閲覧スペース・閲覧座席数・収納スペース・書架収容力と蔵書数・その他のスペース・設備機器等・施設設備の老朽化による具体的な弊害（障害）・既設建物面積及び棟別平面図（p10～p16、p25、p26）
11．図書館資料費・学生用図書購入金額・図書館運営費・図書館総経費（p16～p20、p21、p22）
12．蔵書冊数・受入図書数・受入雑誌数・所蔵数・電子ジャーナル購入種類数及び購入費（p21、p22、p26）
13．年度別開館日数・入館者数・貸出冊数・年度別施設利用者数（p21、p27、p33）
14．附属図書館利用案内（再掲）・学外者利用案内・図書館だより・NEWSLETTER・図書館だより学外配付リスト・備付け希望図書及び視聴覚資料用紙（p27、p29、p30、p33）
15．留学生との懇談会・留学生用購入図書資料（p30）
16．図書館ボランティア懇話会・ボランティア講習会（p３、p35）
17．秋田大学附属図書館公開・講演会（p34）
18．ネットワーク時代の情報リテラシー－学術情報収集及びインターネット活用－（p29、p32）
19．秋田地区大学等図書館連絡協議会要項（p36）
20．附属図書館災害対策マニュアル（案）（p８）
21．附属図書館評価委員会規程（再掲）、附属図書館評価委員会名簿（p37）
22．秋田大学概要（抄）

Akita University

あ と が き

秋田大学附属図書館が外部評価報告書のとりまとめを進めている最中、三浦亮学長の仲立ちを得て、嬉しいニュースが飛び込んできた。それは約400年前に「地動説」を主張し、その科学的根拠を発見したことで知られるガリレオ・ガリレイ（天文学者・物理学者）の「天文対話」と「新科学対話」の原著２冊「Dialogo sopra i due massimi sistemi del mondo tolemaico, e copernicano」「Discorsi e dimostrazioni matematiche, intorno à due nuoue scienze」及び関連する貴重資料を本学附属図書館に寄贈してくださるとの有難い申し入れを受けたことだ。これらの原著は日本国内においては数冊を数えるほどであり、関連する資料もすこぶる稀少価値が高い。寄贈者は著名な資料蒐集家。今回これらの寄贈を受けることによって秋田大学附属図書館にはシェイクスピア全集等に加え、新たな稀覯本が揃うことになる。寄贈を受けるに当たっては、本年７月にささやかな式典を挙行する予定である。以上のことも本学附属図書館に対する信頼と評価の表れであると考え、ここに敢えて紹介することとした。（Ｉ）

秋田大学附属図書館外部評価報告書

平成18年３月発行

編　集　　秋田大学附属図書館評価委員会
発　行　　秋田大学附属図書館

〒010-8502　秋田市手形学園町１－１
電　　話（０１８）８８９－２２７３
ＦＡＸ（０１８）８３２－４９１７